INTERNATIONAL
MUSIC FESTIVAL
NIPPON

人のいるところには
夢がいる。

JAPAN ARTS

INTERNATIONAL
MUSIC FESTIVAL
NIPPON

国際音楽祭
NIPPON
2020

芸術監督：諏訪内晶子

International Music Festival
NIPPON 2020

© Kiyotaka Saito

2020年2月、国際音楽祭NIPPON2020が開幕し、東京と名古屋で満場のお客様にお集まりいただきました直後、新型コロナウイルスの感染拡大により、瞬く間に世界の日常が大きく変わりました。

音楽界をとりまく状況は残念ながら一変してしまいましたが、“音楽がある日常”を強く願い、そして今できることを一つずつ形にしていきたいと思っております。思いを共にする素晴らしい仲間たちと一緒に、2020年3月に予定されていたプログラムの一部を2021年2月に改めてお届けいたします。そして、今回はオンライン配信による演奏もお楽しみいただけるように準備を進めてまいりました。

このような中、皆様の前で演奏できることを大変嬉しく思います。穏やかで安心に満ちた生活が一日も早く戻ることを願っております。

最後に、本音楽祭がスタートいたしました2012年以降変わらずご支援を戴いております企業の皆様、関係の皆様に改めて厚く御礼を申し上げます。

国際音楽祭NIPPON 2020
芸術監督
諏訪内 晶子

In February 2020, just after the opening of International Music Festival NIPPON 2020 and performances to full houses in Tokyo and Nagoya, the lives of people around the world changed instantly due to the spread of the novel coronavirus.

Unfortunately, the situation surrounding the music world has been transformed completely; however, inspired by my earnest wish for a “life with music,” I would like to give concrete form, one by one, to the things that can be done at the present time. In February 2021, together with my wonderful like-minded friends, we will present some of the programs that had previously been scheduled for March 2020. In addition, this time we have made preparations so that music fans can enjoy online performances as well.In the current circumstances, I am truly happy that we are able to perform wonderful music for everyone at the concert hall. I sincerely hope that a life of peace and security returns to the world very soon.

Lastly, I would like to take this opportunity to again express my heartfelt gratitude to the companies and individuals who have continued to provide support for the festival since its launch in 2012.

Akiko Suwanai
Artistic Director
International Music Festival NIPPON 2020

国際音楽祭NIPPON 2020

芸術監督：諏訪内晶子

INTERNATIONAL MUSIC FESTIVAL NIPPON

Mastar Classes

公開マスタークラス（ヴァイオリン）
Open Mastar Classes (Violin)

2021年 2月9日（火）・10日（水） 東京　ティアラこうとう
February 9 Tue. / 10 Wed. Tokyo Tiara Koto

Concert in Kamaishi

東日本大震災復興応援コンサート in 釜石
～諏訪内晶子＆フレンズ～
Concert in Kamaishi Supporting Recovery Efforts after the Great East Japan Earthquake

2021年 2月13日（土） 13:00　釜石　釜石市民ホール TETTO
February 13 Sat. 13:00 Kamaishi KAMAISHI CIVIC HALL TETTO

Museum Concerts

ミュージアム・コンサートⅠ Museum Concert I

2021年 2月14日（日） 13:00　名古屋　徳川美術館 講堂
February 14 Sun. 13:00 Nagoya The Tokugawa Art Museum Original Hall

ミュージアム・コンサートⅡ Museum Concert II

2021年 2月14日（日） 19:00　名古屋　トヨタ産業技術記念館 エントランス・ロビー
February 14 Sun. 19:00 Nagoya Toyota Commemorative Museum of Industry and Technology Entrance Lobby

Chamber Music

諏訪内晶子 室内楽プロジェクト
Akiko Plays CLASSIC & MODERN with Friends

Akiko Plays CLASSIC with Friends
2021年 2月15日（月） 19:00　東京　紀尾井ホール
February 15 Mon. 19:00 Tokyo Kioi Hall

Akiko Plays MODERN with Friends
2021年 2月16日（火） 19:00　東京　紀尾井ホール
February 16 Tue. 19:00 Tokyo Kioi Hall

この他、釜石市の小中学校でアウトリーチが予定されています。
当初発表から出演者が一部変更になっております。

主催：ジャパン・アーツ／日本経済新聞社／釜石市民ホール（東日本大震災復興応援コンサートのみ）
共催：［愛知］中日新聞社／CBCテレビ／徳川美術館　［岩手］岩手日報社／IBC岩手放送
協力：ユニバーサル ミュージック／［愛知］トヨタ産業技術記念館
企画制作：ジャパン・アーツ　監修：沼野雄司／舩木篤也／安田和信
マネジメント：［東京］ジャパン・アーツ　［愛知］クラシック名古屋　制作協力：［岩手］岩手県文化振興事業団

特別協賛：豊田自動織機　TOYOTA　豊田通商　AISIN

Concert in Kamaishi

東日本大震災 復興応援コンサート in 釜石
～諏訪内晶子＆フレンズ～
Concert in Kamaishi Supporting Recovery Efforts after the Great East Japan Earthquake

2021年 2月13日（土） 13:00　釜石　釜石市民ホール TETTO
February 13 Sat. 13:00 Kamaishi KAMAISHI CIVIC HALL TETTO

INTERNATIONAL MUSIC FESTIVAL NIPPON

イザイ：2本のヴァイオリンのためのソナタより第3楽章（諏訪内／米元）
E. Ysaÿe: Sonata for 2 Violins, 3rd Mov.

ブラームス：ピアノ三重奏曲第3番 ハ短調 Op.101（米元／辻本／阪田）
J. Brahms: Piano Trio No.3 in C minor, Op.101

第1楽章：アレグロ・エネルジコ	1st Mov.: Allegro energico
第2楽章：プレスト・ノン・アッサイ	2nd Mov.: Presto non assai
第3楽章：アンダンテ・グラツィオーソ	3rd Mov.: Andante grazioso
第4楽章：アレグロ・モルト	4th Mov.: Allegro molto

■ ■ ■

ドヴォルザーク：ピアノ五重奏曲第2番 イ長調 Op.81
（諏訪内／米元／鈴木／辻本／阪田）
A. Dvořák: Piano Quintet No.2 in A major, Op.81

第1楽章：アレグロ・マ・ノン・タント	1st Mov.: Allegro ma non tanto
第2楽章：ドゥムカ、アンダンテ・コン・モート	2nd Mov.: Dumka. Andante con moto
第3楽章：スケルツォ（フリアント）、モルト・ヴィヴァーチェ	3rd Mov.: Scherzo（Furiant）. Molto vivace
第4楽章：フィナーレ、アレグロ	4th Mov.: Finale. Allegro

ヴァイオリン：諏訪内晶子、米元響子
Violin: Akiko Suwanai, Kyoko Yonemoto

ヴィオラ：鈴木康浩
Viola: Yasuhiro Suzuki

チェロ：辻本 玲
Cello: Rei Tsujimoto

ピアノ：阪田知樹
Piano: Tomoki Sakata

＊イザイ：2本のヴァイオリンのためのソナタの曲目解説は、「ミュージアム・コンサートⅡ」、ブラームス：ピアノ三重奏曲第3番、ドヴォルザーク：ピアノ五重奏曲第2番の曲目解説は、「室内楽プロジェクト Akiko Plays CLASSIC with Friends」をご参照ください。

INTERNATIONAL
MUSIC FESTIVAL
NIPPON

Museum
Concert
I

ミュージアム・コンサート I
Museum Concert I

2021年 2月14日(日) 13:00 名古屋 徳川美術館 講堂
February 14 Sun. 13:00 Nagoya The Tokugawa Art Museum Original Hall

J.S. バッハ：無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ第3番 ハ長調 BWV1005より
J.S. Bach: Sonata for Solo Violin No.3 in C major, BWV1005 （諏訪内）

第1楽章：アダージョ	1st Mov.: Adagio
第4楽章：アレグロ・アッサイ	4th Mov.: Allegro assai

サーリアホ：7羽の蝶々（辻本）
K. Saariaho: Sept papillons for Solo Cello

ラヴェル：ヴァイオリンとチェロのためのソナタ（米元／辻本）
M. Ravel: Sonata for Violin and Cello, Op.73

第1楽章：アレグロ	1st Mov.: Allegro
第2楽章：きわめて活発に	2nd Mov.: Très vif
第3楽章：緩やかに	3rd Mov.: Lent
第4楽章：生き生きと、活気をもって	4th Mov.: Vif, avec entrain

ヴァイオリン：諏訪内晶子、米元響子
Violin: Akiko Suwanai, Kyoko Yonemoto

チェロ：辻本 玲
Cello: Rei Tsujimoto

ご案内：浦久俊彦
Navigator: Toshihiko Urahisa

文筆家、文化芸術プロデューサー。パリで音楽学、歴史社会学、哲学を学ぶ。現在、浦久俊彦事務所代表、一般財団法人欧州日本藝術財団代表理事、代官山未来音楽塾塾頭、サラマンカホール音楽監督として、日本とヨーロッパの文化芸術交流にも力を注いでいる。著書に『フランツ・リストはなぜ女たちを失神させたのか』（新潮社）、『138億年の音楽史』（講談社）など。

Museum
Concert
II

ミュージアム・コンサート II
Museum Concert II

2021年 2月14日(日) 19:00 名古屋
トヨタ産業技術記念館 エントランス・ロビー
February 14 Sun. 19:00 Nagoya
Toyota Commemorative Museum of Industry and Technology Entrance Lobby

イザイ：2本のヴァイオリンのためのソナタ（諏訪内／米元）
E. Ysaÿe: Sonata for 2 Violins

第1楽章：ポーコ・レント、マエストーソ ― アレグロ・フェルモ	1st Mov.: Poco lento, maestoso ― Allegro fermo
第2楽章：アレグレット・ポーコ・レント	2nd Mov.: Allegretto poco lento
第3楽章：フィナーレ、アレグロ・ヴィーヴォ・エ・コン・フオーコ	3rd Mov.: Finale. Allegro vivo e con fuoco

チャイコフスキー：弦楽六重奏曲 ニ短調 Op.70「フィレンツェの思い出」
（諏訪内／米元／鈴木／有田／辻本／上野）
P. I. Tchaikovsky: String Sextet in D minor, Op.70 "Souvenir de Florence"

第1楽章：アレグロ・コン・スピーリト	1st Mov.: Allegro con spirito
第2楽章：アダージョ・カンタービレ・エ・コン・モート	2nd Mov.: Adagio cantabile e con moto
第3楽章：アレグレット・モデラート	3rd Mov.: Allegretto moderato
第4楽章：アレグロ・コン・ブリオ・エ・ヴィヴァーチェ	4th Mov.: Allegro con brio e vivace

ヴァイオリン：諏訪内晶子、米元響子
Violin: Akiko Suwanai, Kyoko Yonemoto

ヴィオラ：鈴木康浩、有田朋央
Viola: Yasuhiro Suzuki, Tomohiro Arita

チェロ：辻本 玲、上野通明
Cello: Rei Tsujimoto, Michiaki Ueno

ご案内：浦久俊彦
Navigator: Toshihiko Urahisa

Program Notes

広瀬 大介（音楽評論）Daisuke Hirose

＜ミュージアム・コンサート Ⅰ＞

J.S. バッハ：無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ第3番 ハ長調 BWV1005より 第1楽章：アダージョ　第4楽章：アレグロ・アッサイ

1720年前後、ヨハン・ゼバスティアン・バッハ（1685－1750）が、音楽好きのアンハルト＝ケーテン侯爵レオポルトのもとにいた時代の作品と言われている。カルヴァン派の同地では宗教音楽にほとんど需要がなく、バッハはこの地でさまざまな器楽曲の可能性を発展させた。いまなお、ひとつの旋律を朗々と演奏することが得意な楽器、というイメージの強いヴァイオリンではあるが、自身が理想とする音楽のかたちを追求する中で、和音や対位法など複数の音を必要とする奏法を、無伴奏というジャンルで開拓したバッハの功績は、いまなお高みにあり続けている。6曲残されたヴァイオリンのための無伴奏作品は、バロック舞曲を主体とした「パルティータ」3曲、そしてイタリアの教会ソナタを範に取った「ソナタ」3曲から成る。今回は『ソナタ第3番』BWV1005から、付点リズムが緊張感を高める第1楽章、各部分が二度繰り返される軽快なアレグロによる第4楽章が演奏される。

サーリアホ：7羽の蝶々

フィンランドを代表する作曲家のひとり、カイヤ・サーリアホ（1952－）は、もともと電子楽器と伝統楽器を併用する作風で世に知られているが、近年の作風では旋律へと回帰し、さらにその旋律にノイズをのせることで、ひとつの音をじっくりと「聴き込む」ことに焦点を合わせた作品が目立つように思われる。

無伴奏チェロのための作品『7羽の蝶々』は、2000年、歌劇『遙かなる愛　L'Amour de loin』のザルツブルクでのリハーサル中に作曲された。チェロ奏者、アンシ・カルットゥネンに捧げられ、同年にヘルシンキで初演されている。「永遠の愛」から、儚いものの象徴としての「蝶々」へと、扱う主題を華麗に転換したことになる。楽譜にして1ページに収まる規模の小曲が7曲収められ、ハーモニクス（弦の上に指を乗せて倍音を出す奏法）やスル・ポンティチェロ（駒に近いあたりを弓で擦る奏法）が多用され、各曲に性格的な書法が際立つ。

ラヴェル：ヴァイオリンとチェロのためのソナタ

1918年、クロード・ドビュッシーが直腸癌で逝去。『ルビュ・ミュジカル』誌では、1920年12月にドビュッシー追悼特集を組み、10人の作曲家に作品を委嘱、モーリス・ラヴェル（1875－1937）の『ヴァイオリンとチェロのためのソナタ』第1楽章は、このうちの一曲として陽の目を見た（全4楽章の初演は1922年4月6日）。

4つの楽章から成る本作は、第1楽章で提示されるヴァイオリンの主要主題とチェロの副次主題が以降の楽章でも用いられ、全体的な統一が図られている。さらには、第1次世界大戦後の新しい音楽の試みとして、ミヨーなども取り組んだ多調性、あるいは長調と短調を目まぐるしく交代させる手法が用いられ、それまでの作品とは一線を画すラヴェルの作風が生み出された。それ故、というべきか、当時の聴き手からは不評も被ったが、後期様式の確立をはかったという意味において本作の意義は大きい。

＜ミュージアム・コンサート Ⅱ＞

イザイ：2本のヴァイオリンのためのソナタ

ベルギー出身のウジェーヌ・イザイ（1858－1931）の名は、いわゆる「フランコ＝ベルギー派」と呼ばれることになる、現代まで脈々と続くヴァイオリン演奏の伝統を限りなく高めた立役者として、いまなおその輝きを保っている。作曲家としてのイザイを見るならば、その音楽的発想は19世紀的な後期ロマン派の伝統を終生踏み越えることはなかった。自身がワーグナーの楽劇に心酔していたこともあってか、どこかヴァイオリンという楽器の限界を踏み越えた、劇的な要素も垣間見られる。複雑な和声を擁しつつも、その音楽は決して調性の枠組みから外れることはない。

『2本のヴァイオリンのためのソナタ』は、長らく埋もれていた自筆譜をロシアのヴァイオリン奏者レオニード・コーガンとその妻エリザヴェータ・ギレリスが発見し、はじめて録音した。イザイの弟子でもあったベルギー王妃エリーザベトに献呈されたが、ふたりがこの作品をともに弾いたのか、どのような経緯で作曲されたのか、すべては謎に包まれている。『無伴奏ヴァイオリン・ソナタ』のような華やかなヴィルトゥオーゾ書法こそ控えめではあるが、同じ難易度で対等に渡り合う2本のヴァイオリンによる、堅固な構成感を有した堂々たる3つの楽章は、この作曲家の新たな側面を見せてくれることだろう。

チャイコフスキー：弦楽六重奏曲 ニ短調 Op.70「フィレンツェの思い出」

最晩年のピョートル・イリイチ・チャイコフスキー（1840－1893）は、充実した創作力を歌劇『スペードの女王』などに振り向けていた。1890年、フィレンツェで作曲していたこのオペラとともに、ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ、各2本ずつを擁する弦楽六重奏曲も同時に進行し、サンクトペテルブルグ室内楽協会の名誉会員選出の返礼として捧げられている。フランス語で『フィレンツェの思い出』と名付けられた本作は、1892年に改訂の手が加えられた。1890年秋に、長年パトロンとしてチャイコフスキーを支えたナジェージダ・フォン・メックからの支援が突如打ち切られたことに対する精神的打撃も、この改訂になんらかの影を落としていると考えるのはうがち過ぎだろうか。

『交響曲第6番』を除けば、チャイコフスキーが完成させた多楽章形式の器楽曲はこれが最後となる。**第1楽章**における複雑な声部書法や転調などは、ブラームスの室内楽と比べてもその充実度合いはなんら遜色ない。**第2楽章**の纏綿（てんめん）と続く旋律はまさにこの作曲家が得意とするところ。どこか素朴な味わいも感じさせるスケルツォ風の**第3楽章**と、ニ短調の第1主題・ハ長調の第2主題が目まぐるしく入れ替わる**第4楽章**など、その音楽的な完成度は目覚ましい。

Chamber Music

諏訪内晶子 室内楽プロジェクト
Akiko Plays CLASSIC & MODERN with Friends

INTERNATIONAL MUSIC FESTIVAL NIPPON

Akiko Plays CLASSIC with Friends

2021年 2月15日(月) 19:00 東京 紀尾井ホール
February 15 Mon. 19:00 Tokyo Kioi Hall

J.S. バッハ:「シャコンヌ」
～無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番 ニ短調 BWV1004より（諏訪内）
J. S. Bach: "Chaconne" from Violin Partita No.2 in D minor, BWV1004

ブラームス:ピアノ三重奏曲第3番 ハ短調 Op.101（米元／辻本／阪田）
J. Brahms: Piano Trio No.3 in C minor, Op.101

第1楽章:アレグロ・エネルジコ	1st Mov.: Allegro energico
第2楽章:プレスト・ノン・アッサイ	2nd Mov.: Presto non assai
第3楽章:アンダンテ・グラツィオーソ	3rd Mov.: Andante grazioso
第4楽章:アレグロ・モルト	4th Mov.: Allegro molto

■ ■ ■

ドヴォルザーク:ピアノ五重奏曲第2番 イ長調 Op.81
（諏訪内／米元／鈴木／辻本／阪田）
A. Dvořák: Piano Quintet No.2 in A major, Op.81

第1楽章:アレグロ・マ・ノン・タント	1st Mov.: Allegro ma non tanto
第2楽章:ドゥムカ、アンダンテ・コン・モート	2nd Mov.: Dumka. Andante con moto
第3楽章:スケルツォ(フリアント)、モルト・ヴィヴァーチェ	3rd Mov.: Scherzo(Furiant). Molto vivace
第4楽章:フィナーレ、アレグロ	4th Mov.: Finale. Allegro

ヴァイオリン:諏訪内晶子、米元響子
Violin: Akiko Suwanai, Kyoko Yonemoto

ヴィオラ:鈴木康浩
Viola: Yasuhiro Suzuki

チェロ:辻本 玲
Cello: Rei Tsujimoto

ピアノ:阪田知樹
Piano: Tomoki Sakata

Akiko Plays MODERN with Friends

2021年 2月16日(火) 19:00 東京 紀尾井ホール
February 16 Tue. 19:00 Tokyo Kioi Hall

スティーヴ・ライヒ:ヴァイオリン・フェイズ ＜1967＞（諏訪内）※
Steve Reich: Violin Phase <1967>

川上 統:組曲「甲殻」より ＜2005-2019＞（諏訪内／辻本／阪田）
Osamu Kawakami: Excerpts from Suite "Carapace" <2005-2019>
「ウミサソリ」「ミジンコ」「ガザミ」「オトヒメエビ(世界初演)」
Sea Scorpion / Water Flea / Swimming Crab / Banded coral shrimp

マーク=アンドレ・ダルバヴィ:ピアノ三重奏曲 ＜2008＞（米元／辻本／阪田）
Marc-Andre Dalbavie: Piano Trio <2008>

■ ■ ■

レオ・オーンスタイン:ピアノ五重奏曲 Op.92 ＜1927＞（諏訪内／米元／鈴木／辻本／阪田）
Leo Ornstein: Piano Quintet Op.92 <1927>

第1楽章:アレグロ・バルバロ	1st Mov.: Allegro barbaro
第2楽章:アンダンテ・ラメントーソ	2nd Mov.: Andante lamentoso
第3楽章:アレグロ・アジタート	3rd Mov.: Allegro agitato

ヴァイオリン:諏訪内晶子、米元響子
Violin: Akiko Suwanai, Kyoko Yonemoto

ヴィオラ:鈴木康浩
Viola: Yasuhiro Suzuki

チェロ:辻本 玲
Cello: Rei Tsujimoto

ピアノ:阪田知樹
Piano: Tomoki Sakata

※エレクトロニクス:有馬純寿
Electronics: Sumihisa Arima

Program
Notes

沼野 雄司（音楽学） Yuji Numano

＜Akiko Plays CLASSIC with Friends＞

J.S. バッハ：「シャコンヌ」
～ 無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番 ニ短調 BWV1004 より

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ（1685－1750）が、優秀な鍵盤楽器奏者であったことは有名だが、ヴァイオリンに関してはどうだろうか？ 幼いころから弦楽器奏者だった父に手ほどきを受け、ワイマールの宮廷ではもっぱらヴァイオリン奏者として勤務しているから、もちろん相当に達者だったことは間違いない。何より、一人の人間が4本の弦で成し得る限界が探求された「シャコンヌ」の楽譜を見れば、バッハがヴァイオリンに関しても特別な才能を持っていたことは明らかだろう。

曲は主題と30の変奏からなるが、同時に3部形式的なフォルムをも備えているのが特徴。すなわち、短調で始まった楽曲は、半ばの第16変奏で長調へと転じたのち、終盤の第25変奏から再び短調へと回帰して荘厳な主題を響かせる。

ヴァイオリンの独奏曲ではあるけれども、しかし聴き手はこの曲に接するとき、それが確かに「ポリフォニー」音楽であることを感じるはずだ。ヴァイオリンが紡ぎだす旋律の背後には、幾筋にもからみあう対旋律が潜んでおり、一本の旋律を聴きながらも、我々はその背後に拡がる無限の空間を意識せずにはいられないのである。

ブラームス：ピアノ三重奏曲第3番 ハ短調 Op.101

「ピアノ三重奏」というジャンルは、40曲を越える作品を残したハイドン、そして「大公」を含む7曲を残したベートーヴェンを経て、ヨハネス・ブラームス（1833－1897）で終着点にたどり着く。もちろんその後もいくつか有名な作品はあるものの、この3つの楽器の組み合わせにひとつの「型」を見出す歴史は、ここで終わったと言ってよい。

そもそもヴァイオリン、チェロ、ピアノという編成は、バロック期に流行した室内楽編成（独奏楽器+通奏低音）が源流であり、ゆえにバロック的な音楽伝統が途絶えた後には、その意味・意義はほとんどなくなる。ロマン派の時代に生きたにも関わらず、不思議なほどバロック的な様式にこだわったブラームスは、かくして最後の「ピアノ三重奏曲作家」となったわけだ。

「第3番」は、1886年、作曲者53歳の年に書かれた作品。後期の晦渋な表情と、しかし意外に楽観的な構造のギャップが魅力的な佳曲である。

第1楽章（アレグロ・エネルジコ）は、3楽器のみとは思えない重苦しく厚い響きと、複雑なヘミオラが特徴。**第2楽章**（プレスト・ノン・アッサイ）は、ピアノのオクターブによる旋律に、弱音器付きの弦楽器がひそやかに添えられる。**第3楽章**（アンダンテ・グラツィオーソ）は、穏やかな曲想ながらも、主部は3+2+2による7拍子の構造。そして**第4楽章**（アレグロ・モルト）は、名人芸的なピアニズムを中心にして、最後にはハ長調へと流れ込んで幸福に幕を閉じる。

ドヴォルザーク：ピアノ五重奏曲第2番 イ長調 Op.81

1863年、リヒャルト・ワーグナーは指揮者としてプラハを訪問した。プログラムは「ニュルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲、「ワルキューレ」抜粋など。この時にオーケストラでヴィオラを弾いていたのが、18歳のアントニン・ドヴォルザーク（1841－1904）である。もともとワーグナーに心酔していたドヴォルザーク青年は、これを機にして、自らもねっとりとした後期ロマン派風の音楽を書くようになった。「交響曲第3番」（1874）の緩徐楽章は、その典型だろう。

30代半ばになり、ハンスリックやブラームスが審査員を務めるオーストリア国家奨学金を受給されてからは、ブラームス的な作風も取り入れねばと考えはじめたようだが、ワーグナー流の半音階と、ブラームス譲りの確固とした構成感を一体化させるのは容易ではない。さて、どうすればよいか・・・。

彼が見出した解決法は、ボヘミアの民俗音楽的な要素を媒介にして2つの要素を調停することだった。1884年にスメタナが亡くなると、ドヴォルザークは自他ともに認めるチェコ音楽界の代表となったから、これも故郷の素材を用いる傾向に拍車をかけただろう。以後、彼は水を得た魚のように次々と傑作をものしてゆく。この代表的な例が1887年に書かれた「ピアノ五重奏曲」である。ここでは、鮮やかな和声と確固たる構成、そして民謡風の旋律が結びついて、どこを切っても実に豊かな音楽が溢れだす。

第1楽章（アレグロ・マ・ノン・タント）は、おおらかな品格の旋律をチェロが提示してはじまる。短調の副主題も可憐きわまりない。**第2楽章**（「ドゥムカ」アンダンテ・コン・モート）はスラブ的な哀調が、緩急とりまぜて提示される緩徐楽章。楽章の副題はウクライナに起源を持つバラード的な民謡を指している。**第3楽章**（モルト・ヴィヴァーチェ）は、民俗舞踊フリアントを用いたスケルツォ。ひたすら楽しい。そして**第4楽章**（アレグロ）では、軽快な旋律が手を変え品を変え、次々に繰り出されて華やかなクライマックスへ。

ちなみに、最晩年に手掛けた交響詩などにおいて、ドヴォルザークの作風は再び変化する。簡単にいえば、再びワーグナー風のニュアンスが濃厚になってくるのだ。これをブラームスの死（1897）と結びつけるのは、うがった見方だろうか？

＜Akiko Plays MODERN with Friends＞

スティーヴ・ライヒ：ヴァイオリン・フェイズ ＜1967＞

アメリカの作曲家スティーヴ・ライヒ（1936－）の初期作品の中で、もっとも有名なのは「ピアノ・フェイズ」（1967）だろう。それに比べて、姉妹作である「ヴァイオリン・フェイズ」（1967）の知名度はだいぶ落ちる。これはおそらく、2つの位相がズレるだけの「ピアノ」に比べて、「ヴァイオリン」が —— その外観とはうらはらに —— 極度に複雑な構造を持っているゆえではなかろうか。

もちろん同シリーズだから、基本的な原理はさして変わらない。とりわけ曲の前半は「ピアノ」と同じだ。一つの旋律パターンが延々と繰り返される一方で、ユニゾンの関係をとるもう一つの声部がゆるやかにテンポを速め、8分音符1つぶんズレる・・・という過程の繰り返し。しかし「ヴァイオリン」が全く異なるのは、やがてここに2つの声部が加わり、全部で4声部に到達する点である（今回の演奏では、3パートをあらかじめ録音した「一人四重奏」となる）。

曲の半ばからは、3つの声部が同じ旋律パターンをズレた形で組み合わせて反復する中、独奏ヴァイオリンはこの旋律パターンの一部をさまざまな形でなぞり、元のパターンの持つ可能性を、万華鏡のように増幅してゆく。その幻覚的な効果は、おそらく音楽史の中にそれまで存在しなかった、見事なものだ。

川上 統：組曲「甲殻」より　＊作曲者解説を参照

マーク=アンドレ・ダルバヴィ：ピアノ三重奏曲 ＜2008＞

マーク=アンドレ・ダルバヴィ（1961－）の作品を初めて聴いた時の鮮烈な印象は、いまだに忘れられない。小型で高性能なスポーツカーが自在に走りまわるといった印象。調性と無調の間を行き来しながら、ぴたり

とハーモナイズされた音群がぐんぐん前に進んでゆく。晩年のブーレーズが彼のことをかわいがったのもよく分かる。

ダルバヴィはパリ音楽院を出た後にイルカムで電子音楽を学ぶという、いわばフランス作曲家の王道コースをたどるが、しかし、その後はベルリンやローマにも長期滞在を果たして、音楽の幅を広げることになった。現在はパリ音楽院の教授を務めるかたわら、世界中からの委嘱を次々に捌く人気作曲家の座に就いている。

近年は、音楽の表面がだいぶ滑らかになった感のあるダルバヴィだが、2008年の「ピアノ三重奏曲」は、クリスピーで尖った感覚が横溢した作品。変ホ音がピアノによって楔のように打ち込まれる中、ヴァイオリンとチェロが合いの手を入れて曲が始まる。全編を支配するのは、上下行を繰り返しながら走り回る32分音符で、弦とピアノが時に反行、時には共に急速に下行しながら、ジェットコースター的な展開を見せる。また、テンポが緩む部分では時に全音階的な（調性的な）ニュアンスが支配するのも特徴。唐突なエンディングも効果的だ。

レオ・オーンスタイン：ピアノ五重奏曲 Op.92 ＜1927＞

レオ・オーンスタインは1893年にウクライナで生まれ（92年説もある）、2002年にアメリカでこの世を去った。享年108。一般的に知られる作曲家としては、もっとも長生きした人物だろう。

ペテルブルグ音楽院に学んだが、当時のロシアで急速に力を増していた反ユダヤ主義から逃れるため（彼はユダヤ教徒の家系）、1907年にニューヨークに移住。ピアニストとしてデビューを飾ったのち、「野人の踊り」「飛行機の上で自殺」といった、クラスター（密集音塊）を縦横無尽に用いたピアノ曲を発表し、恐るべきモダニストとして注目された（これらの作品は、同時期のシェーンベルク作品と比肩しうる不協和、かつ破壊的なリズムを備えている）。やがて公的な作品発表を行わなくなったために、70年代半ばまではほとんど存在を忘れられていたが、近年は録音を含めてずいぶんと演奏機会が増えてきた。

1927年の「ピアノ五重奏曲」は、奇妙なまでに支離滅裂に響く一方で、どこかで聴いたことがあるような、不思議な人懐こさを感じさせる音楽。

強烈なトレモロで始まる**第1楽章**（アレグロ・バルバロ）は、作曲者得意の「野蛮」とロシア的リリシズムが断続的に交錯する。**第2楽章**（アンダンテ・ラメントーソ）は悪夢的な緩徐楽章。そして最後の**第3楽章**（アレグロ・アジタート）は、バルトークを思わせる東ヨーロッパ的な響きを用いた強烈な舞曲。特にピアノ・パートは右手で9連符、左手で7連符を奏する箇所を初めとして、かなり難易度が高い。パッチワークのような構造が延々と積み重ねられたのち（聴く方も体力が必要！）、10数分を経てようやく終結部のピアニシモにたどり着く。

川上 統：組曲「甲殻」より

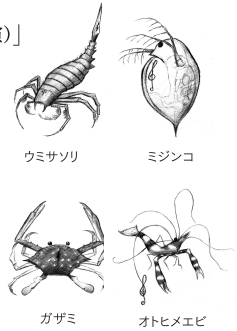
「ウミサソリ(2009)」「ミジンコ(2009)」「ガザミ(2009)」「オトヒメエビ(2021初演)」

ピアノトリオの為の組曲「甲殻」は2005年から書き始めた組曲であり現在16曲を擁し、作曲継続中である。甲殻類やそれに類する生物をテーマにしている。

今回演奏される「ウミサソリ」「ミジンコ」「ガザミ」はいずれも2009年に書かれた。絶滅種である「ウミサソリ」は甲殻類ではないが、2mを越える史上最大の節足動物を擁する種類として知られ、その巨大さを描いた。「ミジンコ」はプランクトンとして知られる小型の甲殻類。速い五拍子で機敏に動く様を描いた。「ガザミ」は後脚が平たくなっており遊泳のできるカニ。硬質な外見とひらひらと泳ぐ様子の対比を描いた。

初演となる「オトヒメエビ」はこの組曲の16曲目として新たに作った。小型のエビであり大型魚の寄生虫を食べる掃除屋として知られ、ウツボなどの口の中に敢えて入り込む大胆さがある。その小さな視点から見えるサンゴ礁の風景や大型魚に接近する様子を竜宮の情景に見立て描いた。

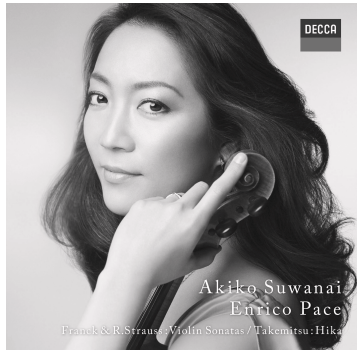
（川上 統）



画：川上 統

諏訪内晶子 Akiko Suwanai

DECCA



フランク＆R.シュトラウス：ヴァイオリン・ソナタ 他

1. R.シュトラウス：**ヴァイオリン・ソナタ 変ホ長調 作品18**
2. 武満徹：**悲歌**
3. フランク：**ヴァイオリン・ソナタ イ長調**

諏訪内晶子（ヴァイオリン）、エンリコ・パーチェ（ピアノ）
録音：2016年1月　パリ、ノートルダム・デュ・リバン
SHM-CD仕様　UCCD-1427　定価￥3,000（税抜）＋税

エモーション

1.バルトーク：**ルーマニア民俗舞曲**　**2.**エネスコ：**ヴァイオリン・ソナタ第3番《ルーマニアの民俗様式で》**　**3.**ファリャ：**スペイン舞曲**　**4.**ファリャ：**スペイン民謡組曲**　**5.**シャミナード：**スペインのセレナード**　**6.**クライスラー：**シンコペーション**　**7.**ドビュッシー：**亜麻色の髪の乙女**

諏訪内晶子（ヴァイオリン）、イタマール・ゴラン（ピアノ）
録音：2012年1月　パリ、ノートルダム・デュ・リバン
SHM-CD仕様　UCCD-1321　定価￥2,718（税抜）＋税

プレリューディオ～諏訪内晶子ベスト・セレクション

1.ファリャ：**スペイン舞曲**　**2.**サラサーテ：**カルメン幻想曲**　**3.**サラサーテ：**ツィゴイネルワイゼン**　**4.**ドヴォルザーク：**スラヴ舞曲第2番**　**5.**シベリウス：**ヴァイオリン協奏曲～第3楽章**　**6.**ファリャ：**スペイン民謡組曲～ホタ**　**7.**ヴィエニャフスキ：**スケルツォ・タランテラ**　**8.**チャイコフスキー：**ヴァイオリン協奏曲～第3楽章**　**9.**J.S.バッハ：**無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第3番～プレリューディオ**　**10.**ラフマニノフ：**ハンガリー舞曲**　**11.**ブラームス：**ハンガリー舞曲第5番**

諏訪内晶子（ヴァイオリン）他　録音：1996-2012年
SHM-CD仕様　UCCD-1370　定価￥2,667（税抜）＋税

UNIVERSAL MUSIC STOREからご購入いただけます！　http://smarturl.it/7bc1k4

発売・販売元：ユニバーサル ミュージック　http://www.universal-music.co.jp/classics/

© TAKAKI KUMADA

Akiko Suwanai

諏訪内 晶子（国際音楽祭NIPPON2020 芸術監督／ヴァイオリン）

1990年史上最年少でチャイコフスキー国際コンクール優勝。これまでに小澤征爾、マゼール、デュトワ、サヴァリッシュ、ゲルギエフらの指揮で、ボストン響、フィラデルフィア管、パリ管、ロンドン響、ベルリン・フィルなど国内外の主要オーケストラと共演。BBCプロムス、シュレスヴィヒ＝ホルシュタイン、ルツェルンなどの国際音楽祭にも多数出演。

2012年、2015年、エリーザベト王妃国際コンクール、2018年ロン＝ティボー国際コンクール、2019年チャイコフスキー国際コンクールヴァイオリン部門審査員。2012年より「国際音楽祭NIPPON」を企画制作し、同音楽祭の芸術監督を務めている。また、これまでにデッカより14枚のＣＤをリリースしている。

桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコース修了。文化庁芸術家在外派遣研修生としてジュリアード音楽院本科及びコロンビア大学に学んだ後、同音楽院修士課程修了。国立ベルリン芸術大学でも学んだ。

使用楽器は、日本にルーツをもつ米国在住のDr. Ryuji Uenoより長期貸与された1732年製作のグァルネリ・デル・ジェズ「チャールズ・リード」。

Akiko Suwanai (Violin／Artistic Director of International Music Festival NIPPON 2020)

Akiko Suwanai was the youngest ever winner of the International Tchaikovsky Competition in 1990. She has performed with the world's foremost orchestras, including the Boston Symphony, Philadelphia Orchestra, Orchestre de Paris, and Berlin Philharmonic, under the batons of Ozawa, Maazel, Dutoit, and Sawallisch, just to name a few. She has appeared in numerous international music festivals including the BBC Proms, Schleswig-Holstein, Lucerne and others. Suwanai was a jury member of the violin divisions of the Queen Elisabeth International Music Competition of Belgium in 2012 and 2015, the Concours International Long-Thibaud-Crespin in 2018, and the International Tchaikovsky Competition in 2019. Since 2012, Akiko Suwanai has been Artistic Director of the International Music Festival NIPPON, which she plans and produces. She has released 14 CDs on the Decca label. Akiko Suwanai studied at Toho Gakuen Music High School and completed the Soloists' Diploma Course of Toho Gakuen College of Music. After studying at the Juilliard School and Columbia University on the Artist Overseas Training program sponsored by the Agency for Cultural Affairs, she received a master's degree in Music from the Juilliard School. She also studied at the Universität der Künste Berlin. Akiko Suwanai performs on the "Charles Reade" Guarneri del Gesu violin c1732, on long-term loan from Dr. Ryuji Ueno, who has Japanese roots and lives in the U.S.

©Hirotada Onaka

Kyoko Yonemoto

米元 響子（ヴァイオリン）

1997年パガニーニ国際ヴァイオリン・コンクール（イタリア）において史上最年少13歳で入賞後、モスクワ・パガニーニ国際ヴァイオリン・コンクール優勝など数々の賞を受賞。これまで国内外の主要オーケストラと多数共演を重ねるほか、室内楽の分野でも高い評価を受けている。現在、マーストリヒト音楽院教授。CD「イザイ：無伴奏ヴァイオリン・ソナタ全曲」（キングインターナショナル）は文化庁芸術祭優秀賞受賞。使用楽器は1727年製のストラディヴァリウス（サントリー芸術財団より貸与）。

Kyoko Yonemoto (Violin)

At the age of 13, Kyoko Yonemoto became the youngest-ever prizewinner at the 1997 Paganini Competition in Italy. She later received numerous prizes including first prize in the Paganini Moscow International Competition. In addition to appearing with major orchestras inside and outside Japan, Yonemoto has earned high praise as a chamber musician. She is currently a professor at the Maastricht Conservatorium in the Netherlands. Her CD Ysaÿe: Complete Sonatas for Violin received the Excellence Award a recipient of the Agency for Cultural Affairs. Kyoko Yonemoto plays a 1727 Stradivarius violin, on loan from the Suntory Foundation for Arts.

■マスタークラス、復興応援コンサート、ミュージアム・コンサートⅠⅡ、室内楽プロジェクト（CLASSIC, MODERN）

Yasuhiro Suzuki

鈴木 康浩（ヴィオラ）

読売日本交響楽団ソロ・ヴィオラ奏者。5歳よりヴァイオリンを始め、桐朋学園高等学校音楽科を経て桐朋学園大学卒業。卒業後ヴィオラに転向。第7回全日本学生音楽コンクール東京大会高校の部第1位ほか受賞多数。2001年よりドイツのカラヤン・アカデミーで研鑽を積み、ベルリン・フィルの契約団員となる。またサイトウ・キネン・フェスティバル、宮崎国際音楽祭など多方面で活躍を続けている。

Yasuhiro Suzuki (Viola)

Yasuhiro Suzuki is a principal solo violist with the Yomiuri Nippon Symphony Orchestra. He began studying the violin at the age of five, and graduated from Toho Gakuen College of Music after studying at Toho Gakuen Music High School. After graduation, he changed instruments from the violin to the viola. Suzuki has won many prizes, including 1st Prize in the high school division of the Tokyo round of the 7th Student Music Concours of Japan. Suzuki trained at the Karajan Academy in Germany starting in 2001, and became an associate member of the Berlin Philharmonic. His wide-ranging activities also include appearances at the Saito Kinen Festival and the Miyazaki International Music Festival.

■復興応援コンサート、ミュージアム・コンサートⅡ、室内楽プロジェクト（CLASSIC, MODERN）

©KING RECORDS

Rei Tsujimoto

辻本 玲（チェロ）

NHK交響楽団首席チェロ奏者。東京藝術大学音楽学部器楽科を首席で卒業後シベリウス・アカデミー、ベルン芸術大学に留学。2009年ガスパール・カサド国際チェロ・コンクール第3位入賞（日本人最高位）。2013年齋藤秀雄メモリアル基金賞を受賞。2019年CD『オブリヴィオン』をリリース（「レコード芸術」誌特選盤）。使用楽器はNPO法人イエロー・エンジェルより1724年製作のアントニオ・ストラディヴァリウスを、弓は匿名のコレクターよりTourteを特別に貸与されている。

公式サイト http://www.rei-tsujimoto.com

Rei Tsujimoto (Cello)

Rei Tsujimoto, principal cellist of the NHK Symphony Orchestra, is a premier prix graduate of Tokyo University of the Arts. He continued his studies at the Sibelius Academy in Finland and Hochschule der Künste Bern in Switzerland. He was awarded second place as well as the Audience Award at the 72nd Music Competition of Japan. In 2007. In 2009, he was granted third place at The Gaspar Cassado International Violoncello Competition.

■復興応援コンサート、ミュージアム・コンサートⅠⅡ、室内楽プロジェクト（CLASSIC, MODERN）

©HIDEKI NAMAI

Tomoki Sakata

阪田 知樹（ピアノ）

2016年フランツ・リスト国際ピアノ・コンクール（ハンガリー・ブダペスト）第1位、6つの特別賞。第14回ヴァン・クライバーン国際ピアノ・コンクール最年少入賞。ピティナ・ピアノコンペティション特級グランプリ、聴衆賞等5つの特別賞、クリーヴランド国際ピアノ・コンクールにてモーツァルト演奏における特別賞、キッシンジャー国際ピアノ・オリンピック第1位及び聴衆賞。東京藝術大学を経て、ハノーファー音楽演劇大学ソリスト課程ピアノ科に在籍。コモ湖国際ピアノ・アカデミーでも研鑽を積む。2017年横浜文化賞文化・芸術奨励賞受賞。

Tomoki Sakata (Piano)

Tomoki Sakata won 1st Prize, along with six special prizes, in the 2016 Franz Liszt International Piano Competition in Budapest. He was the youngest prizewinner in the 14th Van Cliburn International Piano Competition. He has also won the Grand Prix as well as five other prizes (including the audience prize) in the special category of the PTNA Piano Competition, the special prize for interpretation of a Mozart work in the Cleveland International Piano Competition, and 1st Prize and Audience Prize in the Kissinger Piano Olympics. Having studied at Tokyo University of the Arts, Sakata is currently a student in the soloist course (piano) of the Hochschule fur Musik in Hannover. He has also studied at the Lake Como International Piano Academy. Sakata was awarded the Culture and Art Incentive Prize of the 2017 Yokohama Culture Awards.

■釜石市の小中学生対象のアウトリーチ、復興応援コンサート、室内楽プロジェクト（CLASSIC, MODERN）

Tomohiro Arita

有田 朋央（ヴィオラ）

東京藝術大学を卒業、現在はベルリン・ハンス・アイスラー音楽大学の修士課程に在籍、ベルリン放送交響楽団のアカデミー生。ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団にて2017-2019シーズンのアカデミー生として研修を積み、ヨーロッパ、アジア各国でのツアー公演にも出演した。藝大在学時に藝大フィルハーモニア管弦楽団とソリストとして共演。BBCプロムス、ヴェルビエ音楽祭、ルツェルン音楽祭等に出演。

Tomohiro Arita (Viola)

Having graduated from Tokyo University of the Arts, Tomohiro Arita is currently enrolled in the master's course at the Hanns Eisler College of Music in Berlin, and is also a student at the Academy of the Rundfunk Sinfonieorchester Berlin. Arita trained as an academy student at the Deutsche Kammerphilharmonie Bremen in the 2017-2019 seasons and performed in concerts on the orchestra's tours in Europe and Asia. While studying at Tokyo University of the Arts, he performed as a soloist with the Geidai Philharmonia Orchestra, Tokyo. He has performed in the BBC Proms, Verbier Music Festival, and Lucerne Music Festival.

■ミュージアム・コンサートⅡ

©Sihoo Kim

Michiaki Ueno

上野 通明（チェロ）

若い音楽家のためのチャイコフスキー国際音楽コンクール第1位、ルーマニア国際音楽コンクール第1位、ヨハネス・ブラームス国際コンクール・チェロ部門第1位、ヴィトルト・ルトスワフスキ国際チェロ・コンクール第2位。国内外のアーティスト、オーケストラと多数共演し好評を得る他、岩谷時子賞奨励賞、青山音楽賞新人賞受賞。桐朋学園大学SD特待生として毛利伯郎氏に師事し、現在デュッセルドルフ音楽大学でP.ウィスペルウェイに師事。宗次コレクションよりP.A.Testoreを貸与されている。

Michiaki Ueno (Cello)

Michiaki Ueno has won 1st Prizes in the International Tchaikovsky Competition for Young Musicians, the Romanian International Music Competition, and the Johannes Brahms International Competition (cello category), as well as 2nd Prize in the Witold Lutoslawski International Cello Competition. He has performed with many artists and orchestras both in Japan and overseas, earning favorable recognition. He has also been awarded the Iwatani Tokiko Incentive Award and the Aoyama Music Awards New Face Award. Ueno studied with Hakuro Mori on a Soloist Diploma scholarship in the Toho Gakuen College Music Department, and currently studies with Pieter Wispelwey at the Robert-Schumann-Hochschule Dusseldorf. A P.A. Testore cello has been loaned to him from the Munetsugu Collection.

■ミュージアム・コンサートⅡ

©松藤浩之

Sumihisa Arima

有馬 純寿（エレクトロニクス）

エレクトロニクスやコンピュータを用いた音響表現を中心に、現代音楽、即興演奏などジャンルを横断する活動を展開。第63回芸術選奨　文部科学大臣新人賞芸術振興部門、第13回佐治敬三賞を受賞。現在、帝塚山学院大学人間科学部准教授。京都市立芸術大学非常勤講師。

Sumihisa Arima (Electronics)

Sumihisa Arima has participated in many performances as electric music and sound technology as soloist and as a member of chamber ensemble, and highly acclaimed. He received the 63th Encouragement Award for New Artist, Art Development Section (MEXT), and the 13th Keizo Saji Prize as contemporary music ensemble "Tokyo Gen'on Project". He has realized many sessions with experimental musicians, and collaborates with artist as well. He currently teaches as associate professor at faculty of human sciences, Tezukayama Gakuin University.

■室内楽プロジェクト（MODERN）

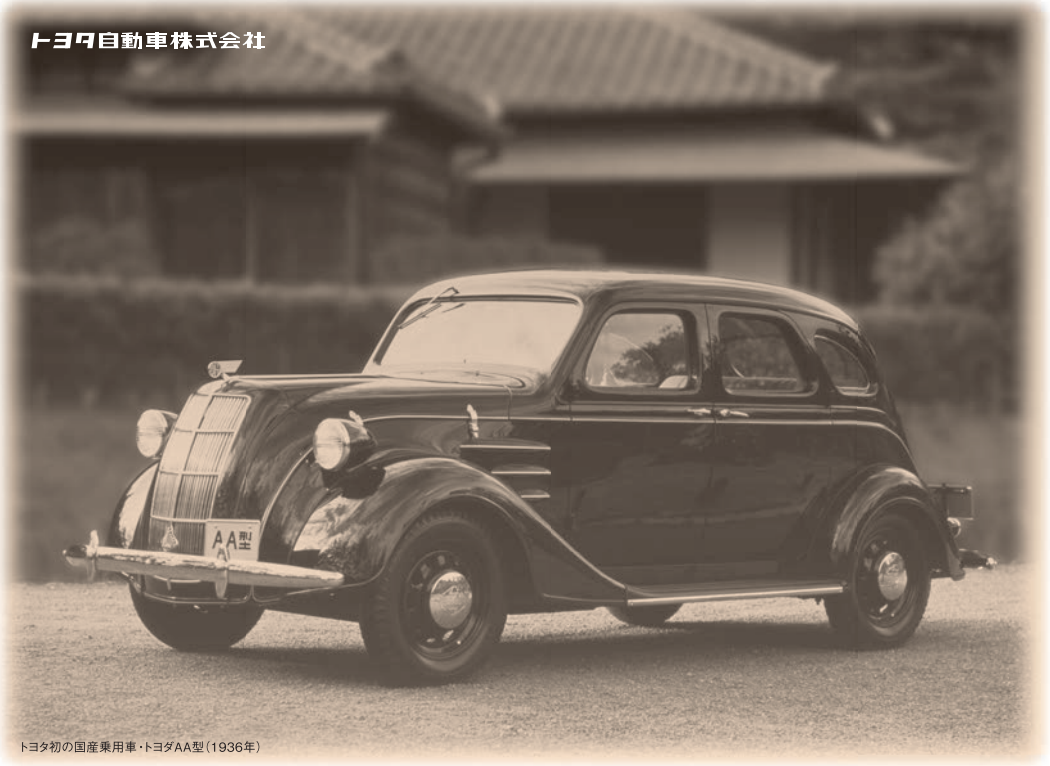
どこへ行きたい。誰に会いたい。何をしたい。その想いに応えよう。
Connected、Autonomous、Shared & Service、Electric。
CASEと呼ばれる4つのテクノロジーを磨き、クルマの可能性を切り拓く。
今こそ移動の自由を、その歓びを、世界中すべての人へ。

The next frontier in mobility.

For a Better Tomorrow
AISIN GROUP

アイシン精機株式会社 | 愛知県刈谷市朝日町2丁目1番地 | http://www.aisin.co.jp/

トヨタ自動車株式会社



トヨタ初の国産乗用車・トヨダAA型（1936年）

変わらぬ想いで、
これからも。

トヨタの社会貢献活動の原点は、創業前まで遡ります。
1890年、創業者 豊田喜一郎の父・佐吉は、
苦労する母親の姿を見て、「豊田式木製人力織機」を発明しました。
1925年には蓄電池の発明奨励のため、
帝国発明協会に寄付を約束するなど、
その生涯は人々の生活を豊かにするための支援に尽力するものでした。
佐吉の精神は喜一郎へ受け継がれ、
さらには今日のトヨタの社会貢献活動へとつながっています。
すべての方々に笑顔になっていただける企業をめざして。
私たちはこれからも、地域の社会課題の解決を通じて、
「いい町・いい社会」づくりに取り組んでまいります。

TOYOTA
Worldwide Olympic Partner | Worldwide Paralympic Partner
トヨタ自動車はオリンピック、パラリンピックを応援しています。

トヨタ　社会貢献　検索　トヨタの社会貢献活動の情報は、インターネットで詳しくご覧いただけます。

豊田通商株式会社

現場に立て。
明日に役立て。

この世にまだない、新しい価値を創造したい。
今日も現場に立ち、グローバルな視点で未来に
貢献してゆきたい。私たちは、豊田通商です。

その商社、豊田通商。

クロマグロ完全養殖事業

医療に不可欠なアイテム、ヨードの生産

FCVの燃料、水素を下水汚泥から製造

アフリカ・ケニア地熱発電プロジェクト

ワクワクを
カタチに変える。

創業から続く繊維機械事業を原点に、自動車や産業車両、物流ソリューションへと、
人々のくらしを豊かにする事業に挑戦してきました。
これからも新たな領域に挑み、温かい社会づくりに貢献する企業であり続けます。

豊田自動織機 www.toyota-shokki.co.jp